

①令和3年度生涯学習関連事業評価

令和3年度（2021年度）生涯学習関連事業評価について

■生涯学習プランの進行と管理

プランに掲げる生涯学習施策を推進するには、教育部門だけではなく、福祉、保健、医療、子ども、環境、産業振興など、さまざまな分野の計画・事業実施所管と連携し、学習、啓発、市民協働の取組を行っていく必要があります。本市では、庁内に「生涯学習推進会議」を設置し、全庁的な体制のもとにプランを推進し、本市における生涯学習社会の実現を目指します。

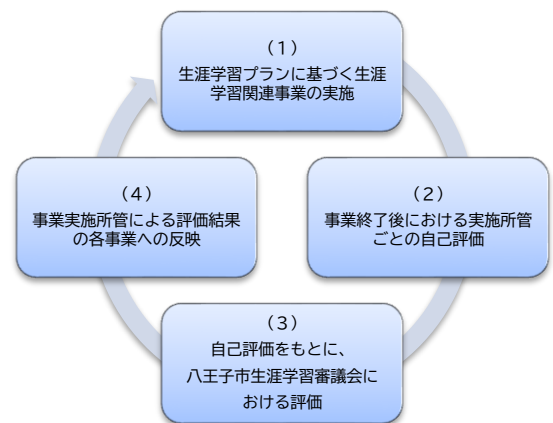
また、市民委員や学識経験者で構成する「生涯学習審議会」を開催し、市民感覚を反映した生涯学習の振興に関する施策の審議、生涯学習に関する施策及び事業の検証と評価を行っています。

■事業の点検と評価

生涯学習関連事業評価は、生涯学習プランの示す「施策の展開」が着実に実現されているかを年度ごとに点検するものであり、全庁の生涯学習関連事業の発展に活用するための見直し・改善のプロセスとして実施します。

また、社会情勢・市民ニーズの変化、国や都の動向に対応しながら、必要に応じて事業の実施内容を見直します。

事業の点検は、市が実施する全事業のうち生涯学習プランに掲載の取組を抽出して行います。



■進捗状況をはかる指標

「生涯学習プラン」の推進にあたり、基本施策ごとに次のとおり指標を設定します。この指標を目安として施策の進捗状況をはかります。

基本施策1 誰もが学べる環境づくり ～まなぶ～		
●指標1 生涯学習活動をしている市民の割合	平成30年度（2018年度） 現状値：52.2%	目標：毎年度、前年度を上回る
○生涯学習の充実度をはかる指標です。より多くの市民が具体的な生涯学習活動を行っていることを目標とします。		
基本施策2 学びから広がる地域づくり ～いかす・つながる～		
●指標2 生涯学習活動の成果を地域活動に活かしている市民の割合	平成30年度（2018年度） 現状値：8.9%	目標：毎年度、前年度を上回る
○生涯学習の成果を地域への還元度をはかる指標です。より多くの市民が、学びの成果をまちづくりの中で活かし、地域や社会の中で活動することを目指します。		
基本施策3 学びを支える基盤づくり		
●指標3 SNSを活用した講座・イベント情報発信し、フェイスブック等の閲覧数	平成30年度（2018年度） 現状値：22,362件	目標：毎年度、前年度を上回る
○生涯学習情報が市民に提供されている状況をはかる指標です。情報発信数とともに閲覧数の増加を目指し、市民の生涯学習活動参加を促します。		

■令和3年度（2021年度）の所管評価の概要

所管評価

評価	説明	令和2年度 (2020年度)		令和3年度 (2021年度)		令和4年度 (2022年度)		令和5年度 (2023年度)		令和6年度 (2024年度)	
		事業数	比率	事業数	比率	事業数	比率	事業数	比率	事業数	比率
S	目標以上の成果があった	9件	7%	3件	2%	-	-	-	-	-	-
A	計画・目標どおりに達成できた	44件	34%	72件	56%	-	-	-	-	-	-
B	計画・目標の一部が達成できなかった	16件	12%	28件	22%	-	-	-	-	-	-
C	達成できず困難な課題がある	0件	0%	2件	2%	-	-	-	-	-	-
評価なし	感染拡大防止による中止などにより評価なし	60件	47%	23件	18%	-	-	-	-	-	-
合計(プラン掲載事業)		129件	100%	128	100%	-	-	-	-	-	-

■令和3年度（2021年度）の進捗状況をはかる指標

指標1 生涯学習活動をしている市民の割合

	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
割合	52.2%	57.9%	56.9%	55.7%	-	-
増減		0.057	▲ 0.010	▲ 0.012	-	-

指標2 生涯学習活動の成果を地域活動に活かしている市民の割合

	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
割合	8.9%	8.6%	7.1%	6.1%	-	-
増減		▲ 0.003	▲ 0.015	▲ 0.010	-	-

指標3 SNSを活用した講座・イベント情報を発信し、フェイスブック等の閲覧数

	平成30年度 (2018年度)	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)
閲覧数	22,362	413,504	537,056	527,655	-	-
増減		391,142	123,552	-9,401	-	-

基本施策1 誰もが学べる環境づくり ～まなぶ～

生涯学習関連事業 48 件

施策の展開		事業数 (件)	具体的な施策	事業数 (件)
01	子どもの頃から始める生涯の学び	14	001 子どもたちが体験できる機会の充実	5
			002 子どもたちに向けた各種講座・教室の充実	7
			003 青少年の海外交流・都市間交流の実施	2
02	人生100年時代を見据えた多彩な学習機会の充実	21	004 人生を豊かにする多様な講座の提供	3
			005 郷土の歴史や文化財に親しむ	3
			006 文化芸術に触れる	2
			007 読書のまち八王子の推進	7
			008 スポーツ・レクリエーションに親しむ機会の充実	4
			009 社会人の学び直しの支援(リカレント教育)	2
03	共生社会実現に向けた生涯学習の支援	13	010 障害のある人の生涯にわたる多様な学びの支援	6
			011 健康寿命の延伸につながる生涯学習の取組	5
			012 性や国籍にかかわらず社会参画につながる学び	2

■目指す姿

- 子どもたちが家庭の環境によらず、多様な体験活動に参加できている。
- 誰もが、いつでも、どこでも、学べる環境で、生涯にわたり多様な学びに取り組んでいる。
- みんながともに学び、みんなが地域の一員として支えあいながら生涯学習活動に取り組んでいる。

■施策の方向性

- 子どもが大人とともに学びあう機会を充実します。
- 家庭環境によらず、全ての子どもたちが体験活動に参加できるように取り組みます。
- 学びのきっかけづくりや、いつでも学び直せるなど、多様な市民ニーズに対応した学習環境づくりを進めます。
- 共生社会の実現に向けた学習機会を充実します。

■令和3年度(2021年度)取組概要

令和2年度(2020年度)はコロナ禍の活動自粛傾向により、約半数の事業の実施を見合わせたが、令和3年度(2021年度)は実施手法を再検討・工夫し、より多くの事業を実施した。

「子どもの頃から始める生涯の学び」について、「13. 青少年海外交流」では現地訪問に代わりオンライン交流会を実施。国際理解を考えるきっかけづくりとして学びと体験の機会を提供した。

「人生100年時代を見据えた多彩な学習機会の充実」について、「34. 社会人の学び直し情報の提供」では、社会人向け学習機会情報を一元化するアプリ「はちりか」を公開した。アプリでは市の直営事業に加え、いちょう塾や大学公開講座などの情報のほか、図書館サイトへのリンクなど網羅し、生涯学習情報を総合的に発信した。読書のまち八王子の推進(23. 乳幼児の読書活動支援)では、ブックスタートにおける出張登録を積極的に行い図書館利用の促進を図るほか、(28. 新たな読書空間“パークライブラリ”)においては、地域連携のほか他所管、大学生の研究ボランティア、高校生が運営するキッチンカーなど多方面との連携により賑わいの創出を図った。また、新たに開催した「24. 本のPOPコンテスト」では、学校との連携も効果を発揮して予想以上の応募があった。絵と短文で本の魅力を表現する、新しい本の楽しみ方を若年層に普及した。

また、パソコン、スマホなど ICT 機器に関する講座、office ソフトやオンライン会議ソフト Zoom に関する講座を実施し、高齢者の情報リテラシー向上やリカレント教育、新しい生活様式の実践に寄与する講座を多くの所管で提供した。

「共生社会の実現に向けた生涯学習の支援」について、「44. 高齢者施設読書活動支援」では、感染対策を講じた図書の貸し出しを PR し、前年度を上回る貸出施設数と貸出数を達成できた。

■令和3年度(2021年度)生涯学習審議会評価

▶令和2年度(2020年度)と比較し、コロナ禍が続く中でも多くの事業が目標通りに実施できるようになっており、「ウィズ コロナ」で生涯学習事業に取り組んでいることは高く評価できる。一方で、中止となった事業について、単に中止ということだけでなく、代替案や次年度に向けた方針を検討することが重要である。

▶令和3年度(2021年度)は、オンライン開催やアーカイブ配信など多様なツールを活用した事業実施が増えているが、それらを取り入れたことによる効果や有用性については事業ごとに検証し、今後の方向性をしっかりと検討してほしい。

▶社会人向け八王子リカレント教育支援アプリ「はちりカ」については、市の事業に加え、大学や職業能力開発センターの講座の情報が一元化されており素晴らしい。リリース以降1,100件以上ダウンロードされ(令和4年(2022年)3月時点)、市民の学びを支えるツールとして活用されているといえる。今後は、さらなる普及・啓発を図り、誰もが活用できるよう、行政からの一層の働きかけが求められる。

▶市で実施している全年齢を対象とした講座については、高齢者の参加割合が高いとのことだが、若い世代を取り込んでいけるようニーズを的確にとらえ、講座内容やアプローチの手法などの工夫をしてほしい。そのことが市政やまちづくりに興味を持つきっかけになり得る。

▶歴史や文化財に関する取組として、現在市内全域を対象としたイベントについては複数実施されているが、市内の各地域の歴史的な特性を活かして、市民が地域に親しみをもち、郷土愛が一層深まるような学習機会の創出や、地域づくりの取組を今後も続けてほしい。

▶図書館への来館が困難な高齢者を対象とした出張貸出や団体貸出について、令和2年度(2020年度)を上回る実績があることは評価できる。一方で、共生社会の実現の観点から、障害者等に対しても同様のアウトリーチがなされることを期待する。

施策の展開		事業数 (件)	具体的な施策		事業数 (件)
04	学校、家庭、地域で支える子どもの育ち	11	013	地域全体で子どもの育ちを支える	4
			014	学校と地域との連携・協働による生涯学習活動	4
			015	子育て世代がつながるきっかけづくり	3
05	地域を豊かにする学びの還元	18	016	地域での活動のきっかけづくり	5
			017	地域で活躍するボランティアの養成・支援	8
			018	地域の課題解決につながる学びの提供	5
06	学びをいかし、みんながつながる環境の充実	16	019	学習成果の発表と学びの広がり	11
			020	日頃の成果の発揮と学ぶ意欲の醸成	5
07	高校生・大学生等、若者が活躍できる機会の充実	13	021	高校生・大学生等と地域がつながる、地域でいかす	9
			022	若者の社会的自立に向けた、学びによる支援	4

■目指す姿

- 全ての子どもたちの健やかな育ちを地域で支えている。
- 学びが個人にとどまらず、社会や地域での活動に活かされ、人と人との交流が新たな学びにつながり、学習成果が循環している。
- 大学生等が地域で活躍できる機会が充実し、大学生等と地域が高めあって、協働している。

■施策の方向性

- 地域で子どもと子育て家庭を応援できるよう、家庭教育の啓発を図ります。
- 子育てについて悩みがある保護者や、保護者同士、学校の先生との接し方について分からないことを相談する機会をつくります。
- より多くの人々が保護者を支援する活動ができるよう、保護者同士や地域をつなぐ人材育成を図ります。
- 市民団体等との協働によるイベントの実施を通じ、市民が学習成果を発表する機会や、地域で活躍できる機会を拡充させ、市民交流を促します。
- 生涯学習を通じて得た知識や経験が、社会や地域での活動に活かされるよう、ボランティアや指導者の育成、イベントの実施を通じて市民のネットワークづくりを支援します。
- 学園都市である本市の強みを活かし、大学・短期大学・高等専門学校と学生、地域の人とのつながりを促します。

■令和3年度(2021年度) 取組概要

「学校、家庭、地域で支える子どもの育ち」について、「56.放課後子ども教室」では、感染症予防のため一部事業を縮小する一方、実施日数は拡大するなど、目標を上回る子どもの利用があった。また「53.学童保育所」は、地域の自治会館や学校余裕教室などの活用に向けた年度内の取り組みが実り、令和4年(2022年)4月に待機児童ゼロを達成することができた。

「地域を豊かにする学びの還元」について、「60.家庭教育支援講座 Fika キャラバン」は、コロナ禍においても保護者同士のつながりが分断されないよう、参加促進の手法を見直したことで、過去最高の参加人数を記録し、家庭教育の啓発と保護者同士の交流機会を創出するとともに、さらなる普及ため紹介動画を配信した。

また「65.生涯学習コーディネーター養成講座」では、コロナ禍以前に比べ参加者は減少したものの、約8割の受講者が講座修了後の地域活動実践を希望し、地域活動団体に参加した。

「学びをいかし、みんながつながる環境の充実」及び「高校生・大学生等、若者が活躍できる機会の充実」では、対面とオンライン配信による同時実施など、参加者が密集しないよう対策を講じるとともに、対面実施を不安に感じる市民が参加しやすい工夫が見られた。「79.生涯学習フェスティバル」をはじめとするフェスティバル形式のイベントでは、オンライン開催への変更、飲食提供の制限、イベント中止に代わる作品展示の場の提供など、コロナ禍においても活動成果発表の場を絶やさない工夫をした。特に若者が対象の「98.学生企画事業」や「100.八王子学生CMコンテスト」では、オンライン環境を整えることで、参加の間口が広がり、これまで以上の成果を上げられた。

■令和3年度(2021年度)生涯学習審議会評価

▶学童保育所の待機児童がゼロになったことは、行政や事業者、地域の団体が一体となって尽力した結果として評価したい。令和3年度(2021年度)までの取組の積み重ねが、「児童の放課後活動等の充実に向けた今後の方針～学校は子どものホッとプレイス～」策定につながったことを大いに評価する。放課後子ども教室と学童保育所の一体的な運営を一層推進することで、内容のさらなる充実を図り、幼少期の学びと体験が生涯学習につながるよう、子どもたちへの投資をしてほしい。

▶コロナ禍においては、人と人が「つながる」ことに難しさがあったが、家庭教育支援講座「FIKAキャラバン」では、参加者数が令和2年度(2020年度)では21人であったが、令和3年度(2021年度)では152人と飛躍的に伸びている。コロナ禍でも保護者同士をつなげる取組が積極的になされた結果であり、評価したい。また、学校運営協議会や地域学校協働活動本部を通じて、市民が知識や経験を地域の中で活かす場を創出することで、地域社会全体で子どもの育ちを支えることができると考える。さらに連携や協力体制を強化してほしい。

▶他者との関わりが希薄になっている現下において、家庭教育関連講座や親子ふれあい広場を通じて、初めて子育てをする保護者同士のみならず、多世代がつながることのできる場所が広がることを期待する。

▶ボランティアの養成など、地域人材育成関連事業の取組が、令和2年度(2020年度)に比べてより多く実施できている。事業実施所管や協力団体による様々な工夫による「学びを止めない」姿勢は評価できる。今後は、受講者を増やす工夫をし、新たな人材を養成するとともに、ボランティアが活躍できる機会を提供していくことが大切と考える。

施策の展開		事業数 (件)	具体的な施策		事業数 (件)
08	学びのきっかけとなる情報の提供・学びの提供	11	023	学びへの新たな参加を促す取組	1
			024	生涯学習の相談体制の充実	2
			025	生涯学習機会の情報の発信	8
09	生涯学習環境の整備	11	026	生涯学習環境の充実と活動の場の提供	7
			027	誰もが生涯学習へ参加しやすい環境づくり	3
			028	ICTを活用した生涯学習機会の充実	1

■目指す姿

- 生涯学習情報を広報紙・インターネットなどの複数の媒体で、分かりやすく提供し、市民の生涯学習活動の充実につながっている。
- 生涯学習施設が、市民が気軽に集い、つながれる、学びのきっかけづくりの場として機能している。

■施策の方向性

- 生涯学習を始めたい市民、学習をより深めたい市民、サークル活動やボランティア活動など人とのつながりを求める市民が、必要とする生涯学習情報を分かりやすく入手できるよう、情報提供の環境を充実します。
- 市民が気軽に相談できる環境のほか、専門的な質問に対して、適切な案内と助言を行うことができる人材を養成するなど、相談体制を充実します。
- 身近な場所で、生涯学習活動がしやすいように環境整備を進めます。

■令和3年度(2021年度) 取組概要

「学びのきっかけとなる情報の提供・学びの提供」について、各所管がコロナ禍における講座・事業情報をそれぞれの媒体で発信した。特に「114. はちコミねっと」では利用促進の取り組みが功を奏し、コロナ禍においてもサイトへの登録団体数を増やし、アクセス数は前年度比でほぼ倍増した。

「生涯学習環境の整備」について、「119. 生涯学習センター」では、3館の延べ利用者数は約12万人となり、前年度の約9万7千人に比べると回復基調が見られたが、コロナ禍以前は20万人台で推移していたことから見ると市民の活動状況は元通りとは言えない状況が窺える。そのような状況ではあるが、学生のための無料自習室「121. フリースペース」事業では、平日拡大実施が学生に年々浸透し、34日間の休館日があったにもかかわらず過去最高となる延べ2万1千人以上が利用。コロナ禍における若者のサードプレイスとしての役割を果たした。

図書館ではICTの活用(129. ICTの活用)により、電子書籍コンテンツの拡充とナクソスミュージックライブラリの導入により、コロナ禍において図書館に出向かずとも、市民が読書や音楽に触れられる機会を提供するなど、更なる利便性の向上を図った。また、読み聞かせ動画を配信するなど、ホームページ等での情報発信の充実を図った。

■令和3年度(2021年度)生涯学習審議会評価

- ▶生涯学習センターの年間利用者数に表れているように、令和2年度(2020年度)に比べて、令和3年度(2021年度)は様々な生涯学習関連施設で年間利用者数が回復基調にある。ワクチン接種の普及や、施設利用制限の緩和などにより、コロナ禍が収束しない中でも、市民がそれぞれの工夫で活動を再開し始めている様子がうかがえる。一方で、働き方やライフスタイルの変容に合わせて、これまで公共施設を利用していなかった市民のニーズにも対応することが大切である。
- ▶図書館事業におけるICTの活用について、八王子市では電子書籍のタイトル数が約16,000点と、令和2年度(2020年度)と比較し大幅に拡大するとともに、利用者も多く全国的に見ても成功事例と捉えて良い。また、電子書籍や音声資料の導入によって、図書館の利活用の幅を広げた点は高く評価する。加えて市民センターの地区図書室の周知を図り、図書がより多く活用されることを期待したい。
- ▶文部科学省では「学校で電子書籍をどう導入するか」との課題が出ているため、学校と連携し、子ども達が電子書籍を活用できる環境づくりをしてほしい。
- ▶DXの時代の学習形態について、オフライン希望者もいれば、オンライン希望者もいる。今後、生涯学習も対面での学びとICTを活用した学びのベストミックスが求められる。市民が一般に使用しているweb会議システムなど、DXのツールは行政も柔軟に取り入れ、生涯学習の機会を逃さない取組をしてほしい。
- ▶情報の発信については、インターネット・アプリ・SNSと多様だが、高齢者世代には町内会の回覧・掲示板を情報源とする方もいるので、周知対象に応じた告知方法を吟味してほしい。
- ▶「誰もが参加しやすい環境づくり」について、託児は多くの利用があり、浸透してきたことを感じる。一方で社会的ハンディのある人も健常者と同じように躊躇なく学習機会に参加できることが理想であり、開催者があらかじめ支援を提示することはできないだろうか。同じ意味で、ICTの整備、適切な使用が欠かせないを考える。

令和3年度(2021年度)生涯学習審議会評価

令和2年度(2020年度)に引き続き、新型コロナウイルス感染症が流行しているが、「ウィズ コロナ」に対応して感染防止対策をしつつ、生涯学習事業に取り組んだ姿勢を高く評価する。事業によってはオンラインツールを導入し、オフライン開催との使い分けや、ハイブリッド開催を実施する等の工夫が見られた。

図書館でも電子書籍・音声資料を導入し、来館困難な高齢者向けに出張貸出・団体貸出をし、前年度を上回る利用実績を上げたことも評価できる。また、読書推進・図書館サービスの取組は、乳幼児～高齢者までをカバーしており、特に「本のPOPコンテスト」など、中高生や大学生を対象としたアプローチは高く評価できる。

子ども施策に関しては、学童保育所の待機児童ゼロを実現するとともに、子どもたちに様々な体験機会を提供できるよう、内容の拡充が図られていると感じる。また、家庭教育講座の実施によって、コロナ禍でも保護者をつなげる取組をしたことも評価する。そのうえで、地域全体で子育てを支え、学びを活かすためにも、学校運営協議会・地域学校協働活動本部とのさらなる連携や協力体制を構築する必要がある。

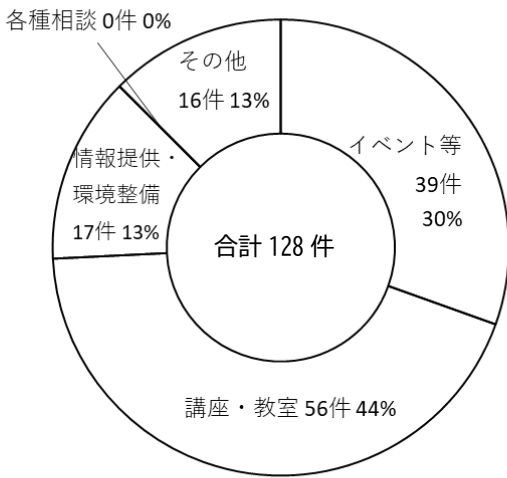
一方で、令和2年度(2020年度)同様に中止した事業については、代替案や次年度に向けた方針を検討すべきである。オンライン導入についても、効果・有用性を検証し、オフライン開催の利点も考慮した上で、今後の方向性を検討してほしい。加えてオンラインに馴染みのない層へのアプローチや、社会的にハンディのある層・若年層が参加しやすい環境づくりのために何をすればいいのか等の多角的な視点を持ち、潜在的な参加希望者層をどう取り込んでいくかが課題になる。情報提供については、デジタルのみならず、町会・自治会などの地域コミュニティを活かした周知手法も効果的に取り入れるとよい。

生涯学習プランの基本理念「市民・地域とともに高めあう 学びのまち八王子 ～みんながまなぶ いかす つながる～」の実現のため、社会情勢・生活形態の多様化に合わせて、生涯学習事業の実施方法・結果を検証し、次年度の課題解決へと繋がる取組を継続してほしい。また事業実施にあたっては、行政と市民との連携だけでなく、学校教育部門と生涯学習部門の連携、市長部局との連携など庁内連携も一層意識して取り組まれるとよい。こうした取組を通じて、市民が人生100年時代をより豊かに生きるための学習環境と、地域の課題や社会的課題の解決に寄与し持続可能な地域社会が構築されることを期待する。用が欠かせないと考える。

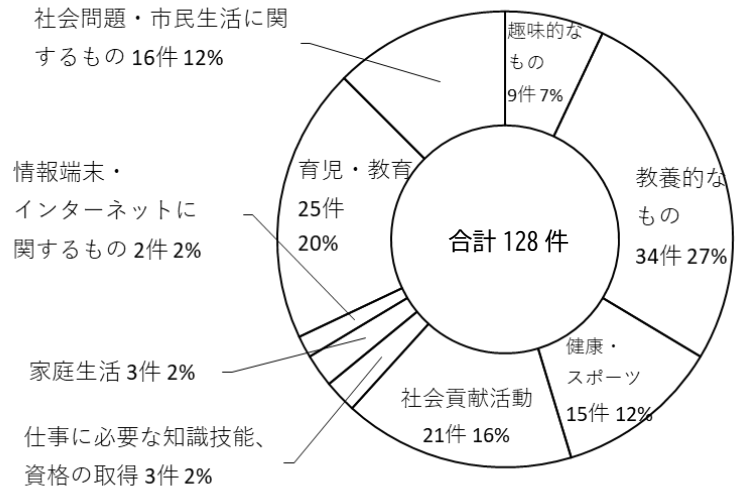
②生涯学習関連事業統計グラフ

全体(128件)

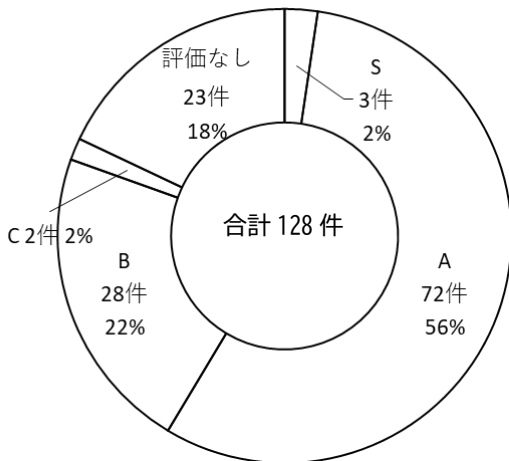
種類



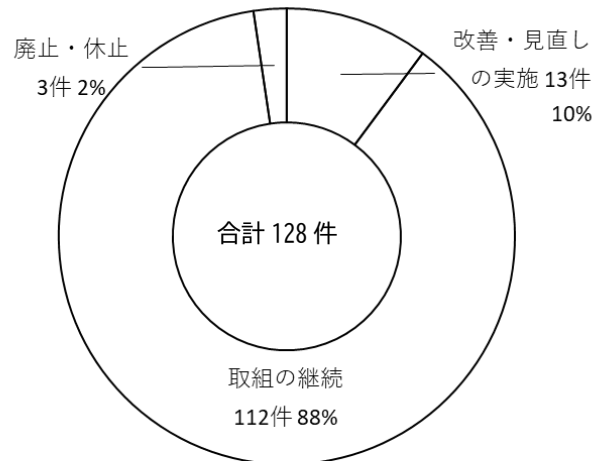
分野



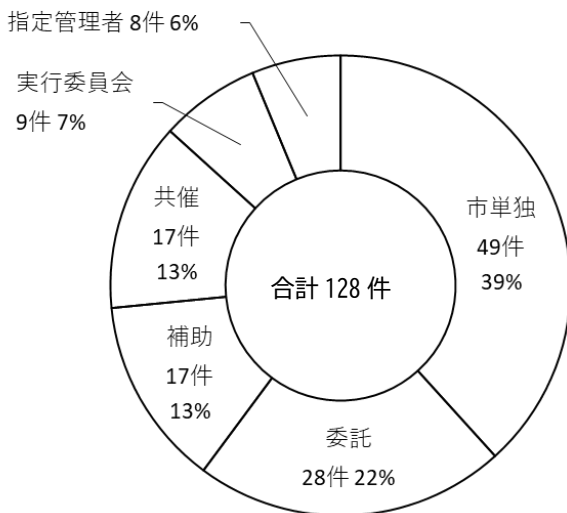
評価



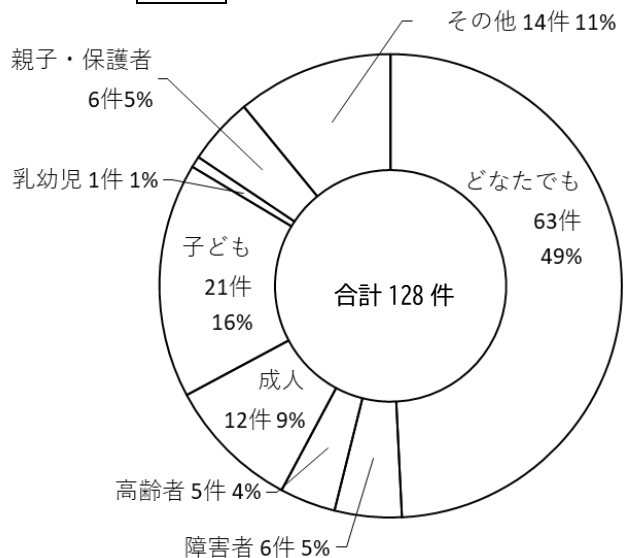
今後の方向性



事業の実施形態

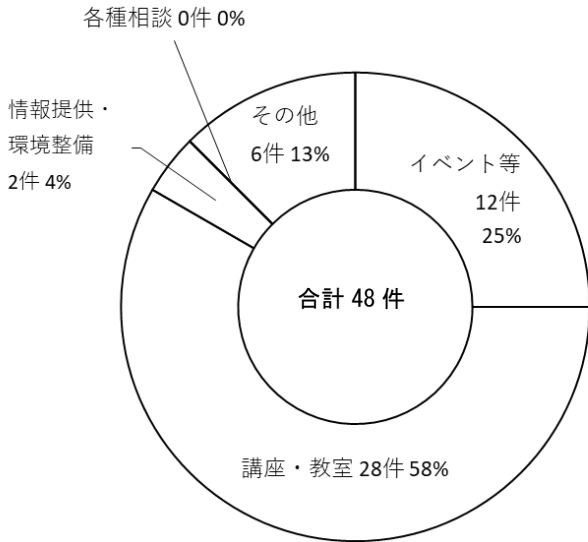


対象者

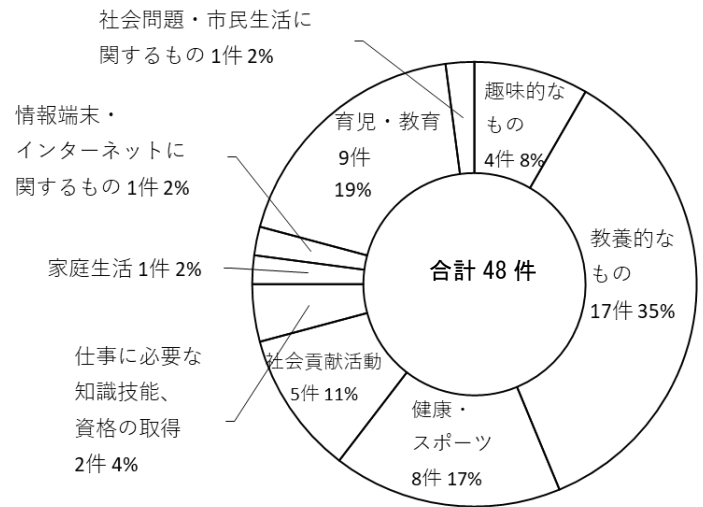


基本施策1 誰もが学べる環境づくり～まなぶ～(48件)

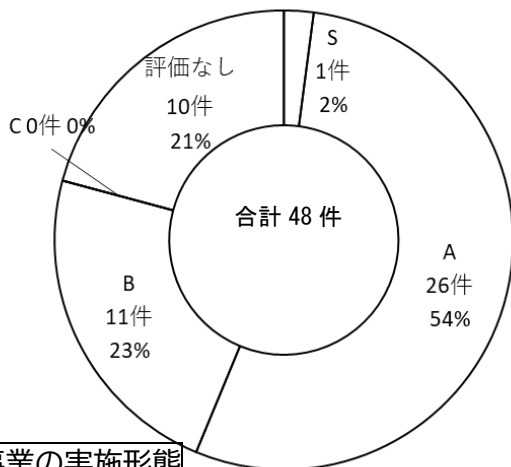
種類



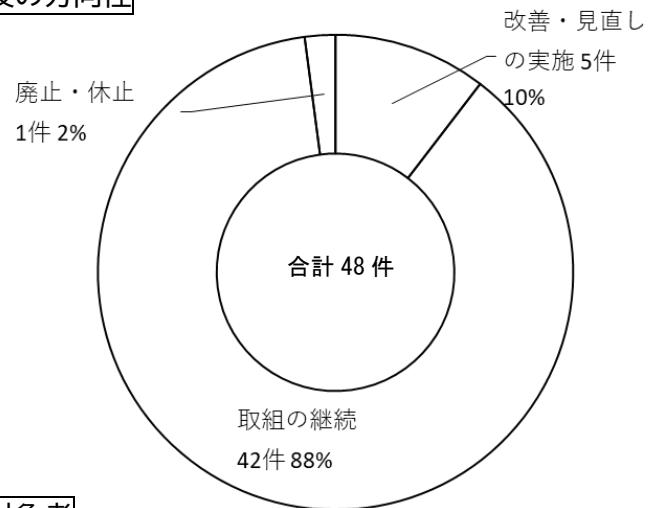
分野



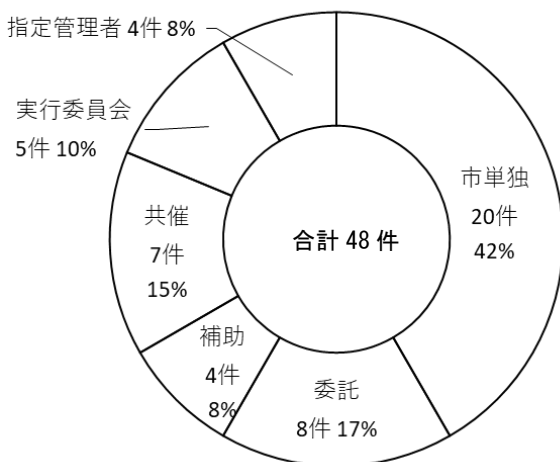
評価



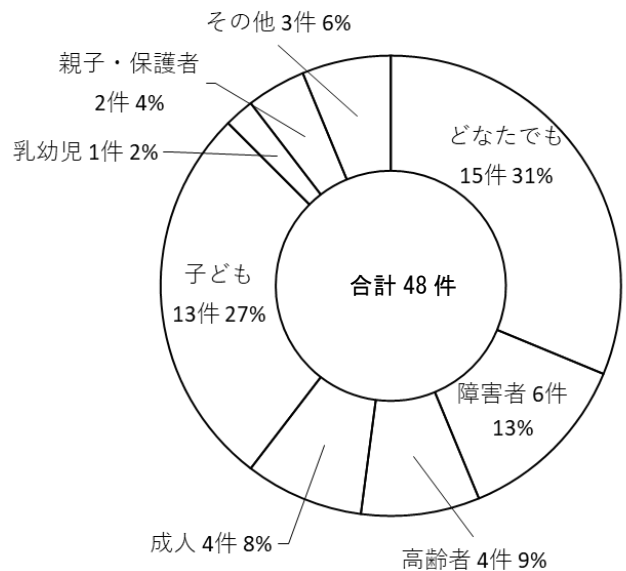
今後の方向性



事業の実施形態

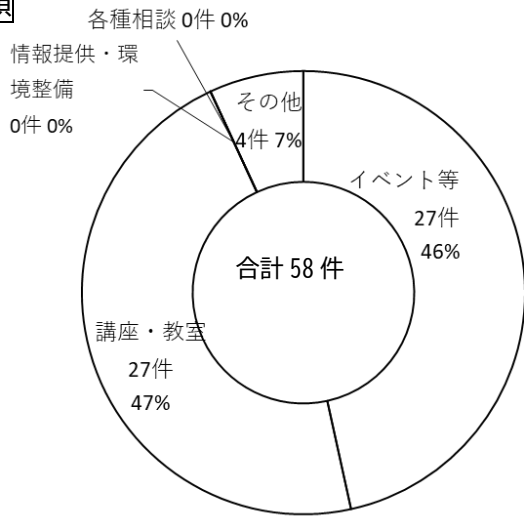


対象者

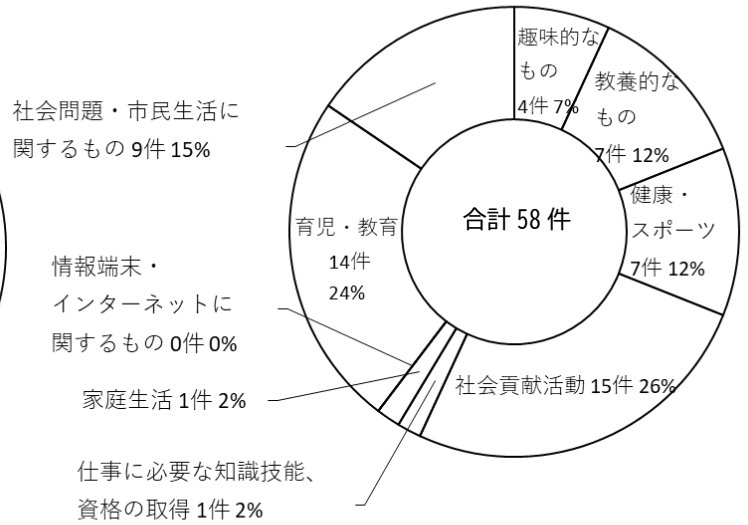


基本施策2 学びから広がる地域づくり～いかす・つながる～(58件)

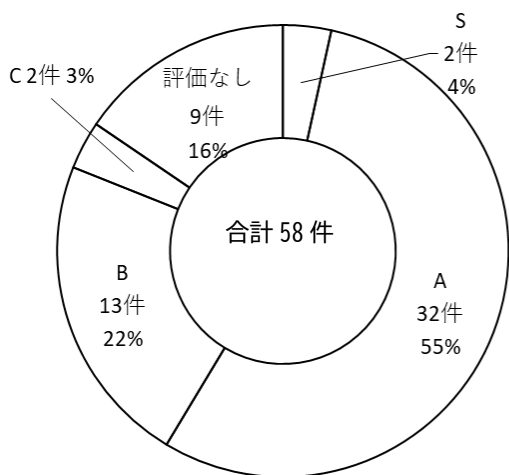
種類



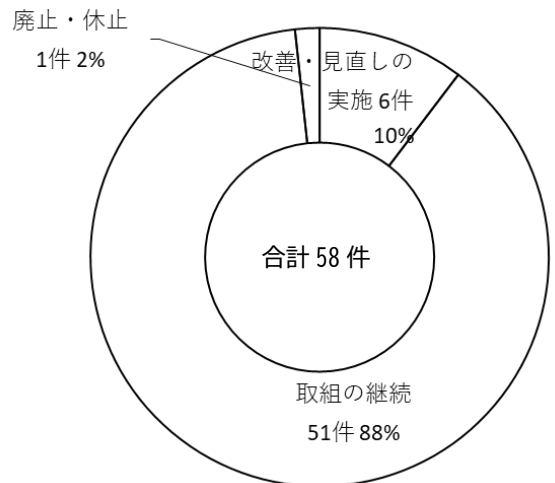
分野



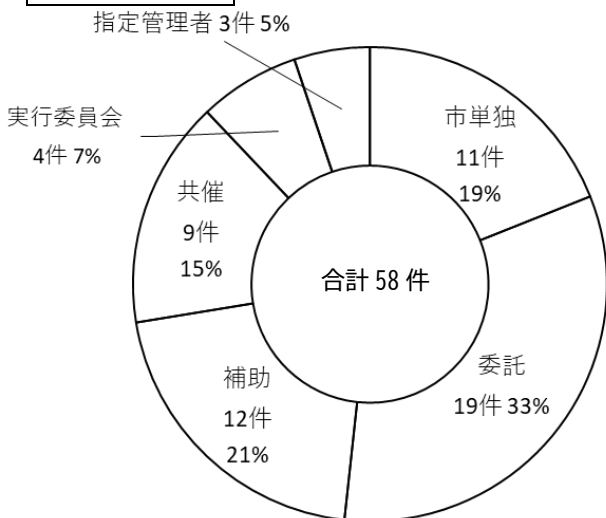
評価



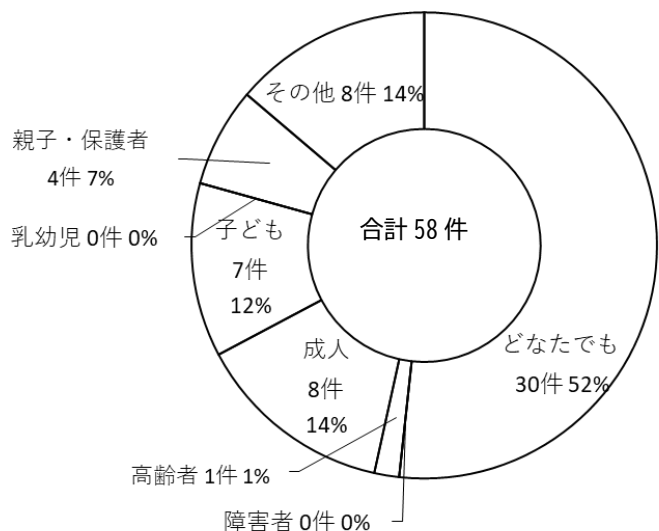
今後の方向性



事業の実施形態

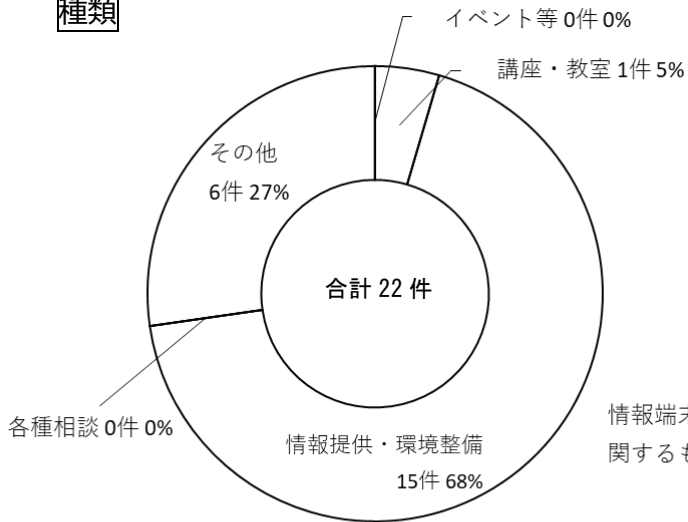


対象者

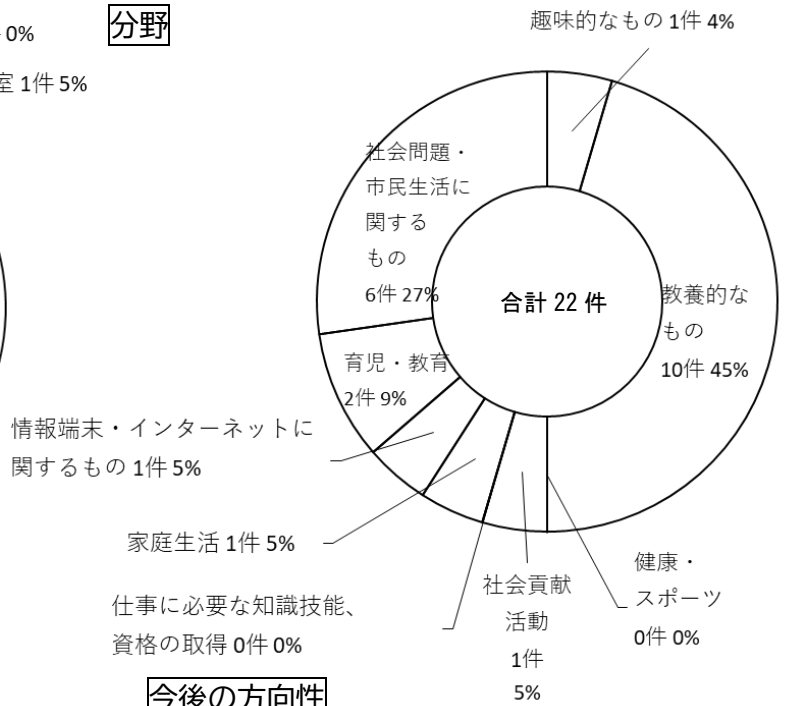


基本施策3 学びを支える基盤づくり(22件)

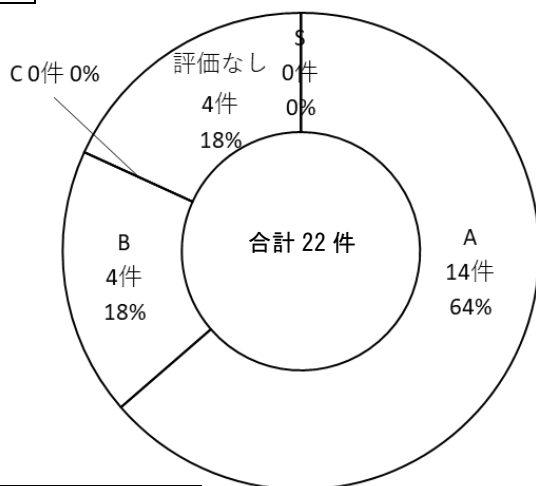
種類



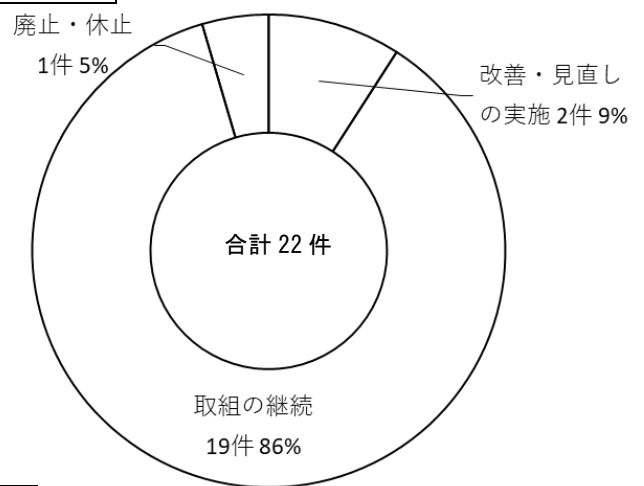
分野



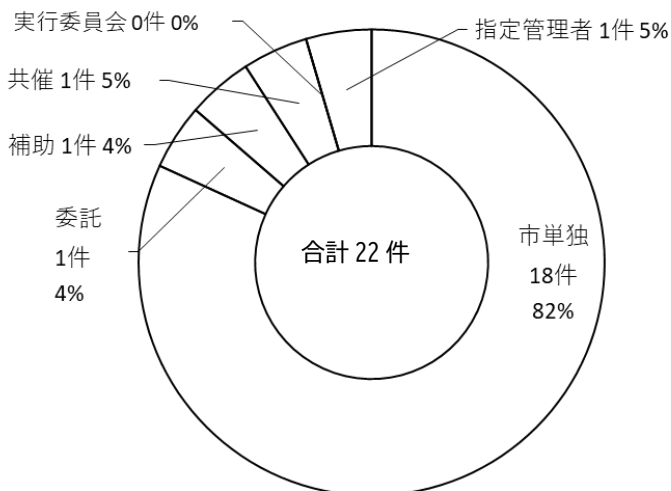
評価



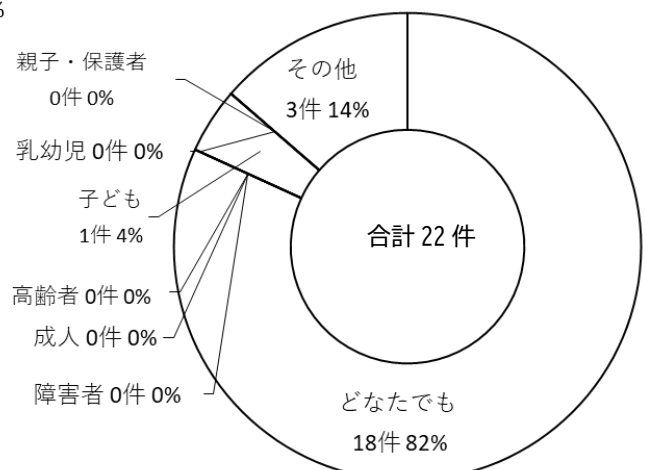
今後の方向性



事業の実施形態



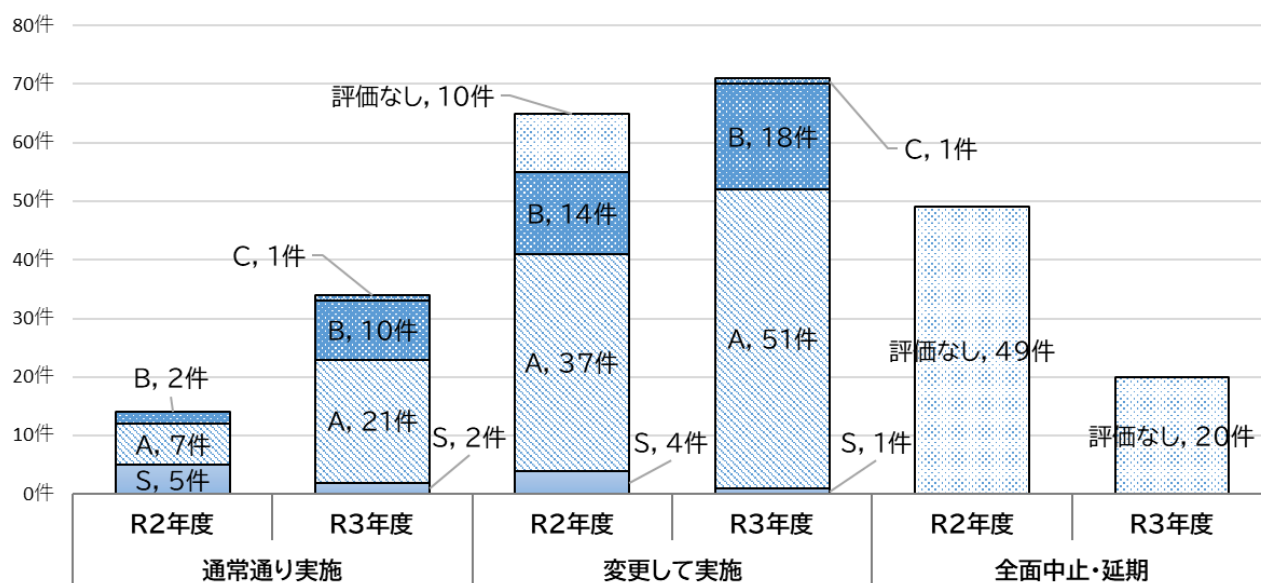
対象者



感染症による影響

新型コロナの影響(令和2年度・3年度比較)

評価	総数		通常通り実施		変更して実施		全面中止・延期		— (該当なし)	
	R2年度	R3年度	R2年度	R3年度	R2年度	R3年度	R2年度	R3年度	R2年度	R3年度
S	9件	3件	5件	2件	4件	1件	0件	0件	0件	0件
A	44件	72件	7件	21件	37件	51件	0件	0件	0件	0件
B	16件	28件	2件	10件	14件	18件	0件	0件	0件	0件
C	0件	2件	0件	1件	0件	1件	0件	0件	0件	0件
評価なし	60件	23件	0件	0件	10件	0件	49件	20件	1件	3件
合計	129件	128件	14件	34件	65件	71件	49件	20件	1件	3件



オンライン実施概要

令和3年度	総数	実施方法			該当なし
		対面実施	オンライン実施	どちらも実施	
評価					—
S	3件	2件	0件	0件	1件
A	72件	42件	5件	12件	13件
B	28件	17件	1件	7件	3件
C	2件	2件	0件	0件	0件
評価なし	23件	0件	0件	0件	23件
合計	128件	63件	6件	19件	40件

